２０２３年（令和５年）　５月３０日　火曜日

デーリー東北　９面　掲載

青森県

春季高校野球

春季東北地区高校野球青森県大会最終日は29日、青森県営球場で決勝と3位決定戦が行われた。決勝は、工大一が同地区の八学光星を破り、12大会ぶり7回目の優勝を果たした。3位決定戦では青森山田が弘学聖愛に逆転勝ちを収めた。

優勝した工大一と準優勝の八学光星は、岩手県で行われる春季東北大会（6月7～11日）に出場する。組み合わせは31日に決まる。

（千葉達也、磯野雄太郎）

決勝

工大一	000	100	020	3
八学光星	000	200	000	2

（工）齋藤、白石ー藤島
（八）越智、石見、洗平ー藤原
▷本塁打　中澤恒（八）
▷二塁打　齋藤、最上（工）中澤惇（八）
▷暴投　白石（工）越智２（八）▷ボーク　洗平（八）▷捕逸　藤原（八）
▷試合時間　２時間13分
（球審＝立花、塁審＝松橋、石山、小西）

【評】工大一は四回、敵失に乗じて先制したが、直後に２点を奪われ逆転を許す。終盤の八回、杉山のスクイズで同点に。続く織笠のバント安打の間に３塁走者が生還し、勝ち越しに成功した。２番手白石は５回⅔を無失点で抑える力投。八学光星は四回に中澤恒の本塁打で２点を返すにとどまった。

光星 らしさ影潜め

○…「もろい」。八学光星の仲井宗基監督が吐き出した言葉が試合を物語っていた。守備のほころびで失点。自慢の強打は影を潜め、膝下の変化球に安易に手を出し散発7安打。昨秋は2回戦敗退し勝利に飢えていたが、らしからぬ負け方で春制覇を逃した。中澤恒貴主将は「守備の連携と制球眼を磨きたい」と巻き返しを誓った。

四回、中澤の今大会第2号2ランで打線が勢いづくかとみられたが、以降は工大一の二番手白石秀登の前に凡打が続いた。

工大一に逆転を許した八回二死三塁の場面は守りで精彩を欠いた。警戒していたはずのバント。打球を一塁手新城雄麻が捕球するもベースカバーが間に合わずセーフに。その間に生還を許した。新城は「コミュニケーションが取れていなかった」と唇をかんだ。

夏に向け、仲井監督は「メンバーの入れ替えも含めてもう一度チームをつくっていく」とナインの奮起を促した。

【工大一ー八学光星】4回八学光星無死一塁、中澤恒貴が左越え2ランを放ち、2―1とする

【工大一】		打	安	点	振	球
⑤	中田	4	1	0	1	1
⑦	今野	4	2	0	1	1
⑥	長谷地	3	0	0	1	1
③	最上	3	3	0	0	1
⑧	杉山	1	0	1	0	0
⑨	織笠	4	1	1	1	0
②	藤島	3	0	0	0	0
①	齋藤	2	1	0	1	0
1	白石	2	0	0	1	0
④	山田	4	0	0	2	0

犠盗失併残
4 0 1 1 8 30 8 2 8 4

【八学光星】		打	安	点	振	球
⑤	鈴木	5	1	0	0	0
⑧	砂子田	3	1	0	0	1
⑥	中澤恒	4	2	2	0	0
⑨	長谷	4	0	0	0	0
④	池田	3	1	0	0	1
③	新城	3	1	0	0	1
⑦	川島	3	0	0	1	1
②	藤原	4	0	0	0	0
①	越智	1	0	0	1	0
H	西尾	1	0	0	0	0
1	石見	0	0	0	0	0
H	齋藤	1	0	0	0	0
R	辻	0	0	0	0	0
1	洗平	0	0	0	0	0
H	中澤惇	1	1	0	0	0

犠盗失併残
0 0 1 1 8 33 7 2 2 4

投手	回	打	安	振	球	失
齋藤	3⅓	14	2	1	3	2
白石	5⅔	23	5	1	1	0
越智	5	21	5	6	2	1
石見	2	7	0	1	1	0
洗平	2	10	3	1	1	2

デーリー東北新聞社提供